

第2章 小値賀町の現状と課題

1. 統計から見る自殺の状況

(1) 自殺者数の推移

図2より国・長崎県内の自殺者数は横ばいまたは微増傾向にあり、長崎県内の自殺率は国とほぼ同様の推移を示しています。また、図3より小値賀町の5年間平均自殺率は0人であり、本自殺対策計画の効果が出ているものと思われます。そのため、現状の自殺対策を継続していくことが重要です。

国の定める目標としては、

「令和8年までに H27年度より30%以上減少させ、人口10万人当たりの年間の自殺者数を13人以下とする。」と定められています。

図2：全国及び長崎県の自殺者数の推移

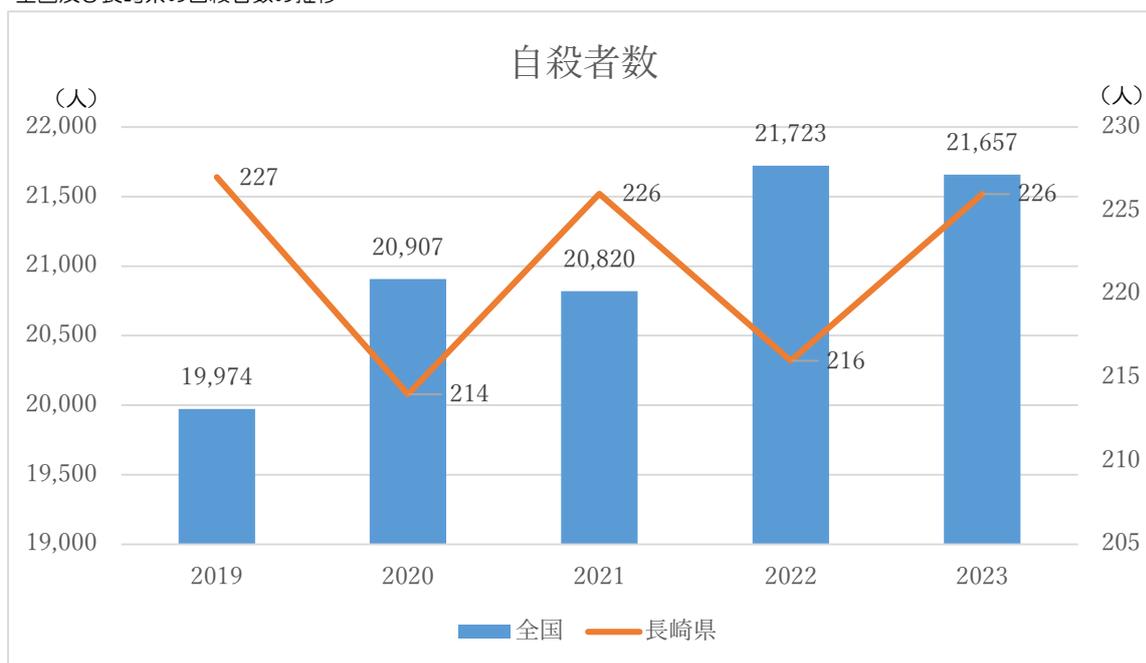


図3：全国、長崎県及び小値賀町の5年間（2019年～2023年）の自殺者死亡率の平均

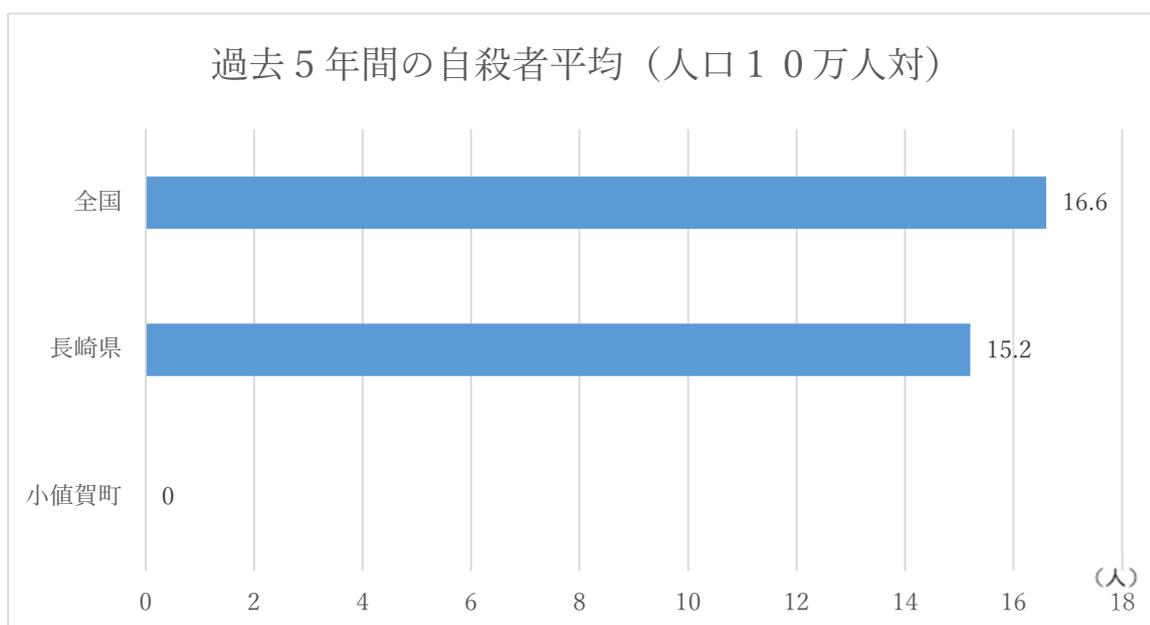
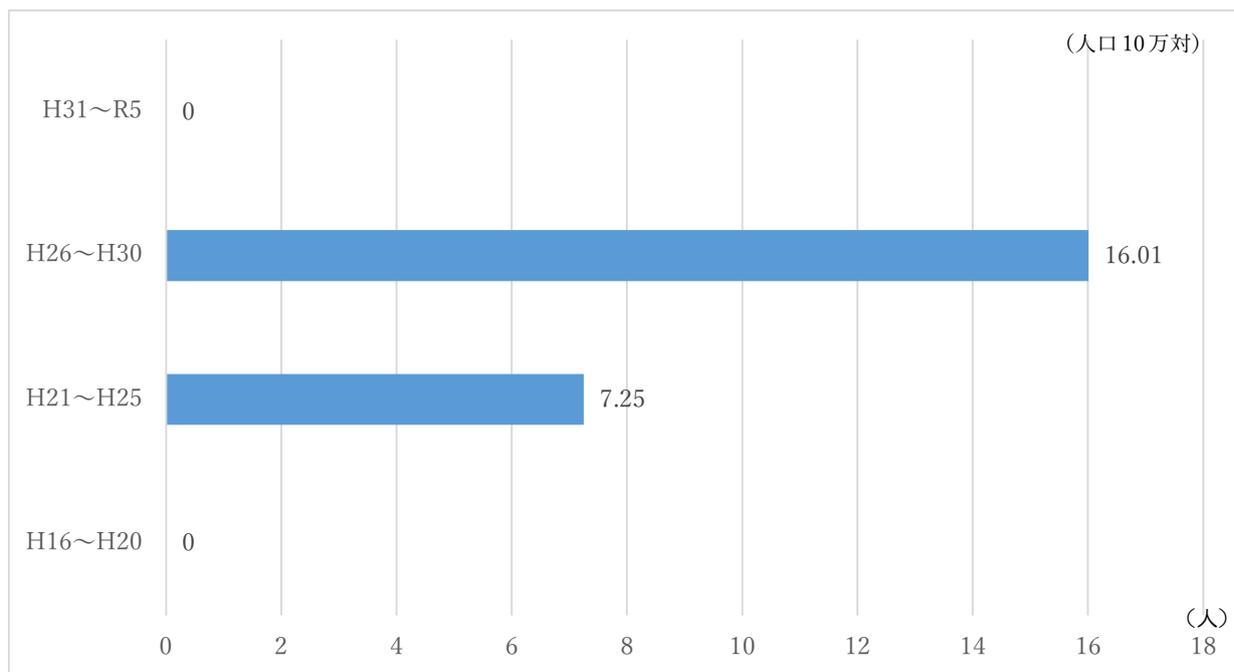


図4：小値賀町過去20年間の自殺率の推移（5年毎の自殺率の平均値）

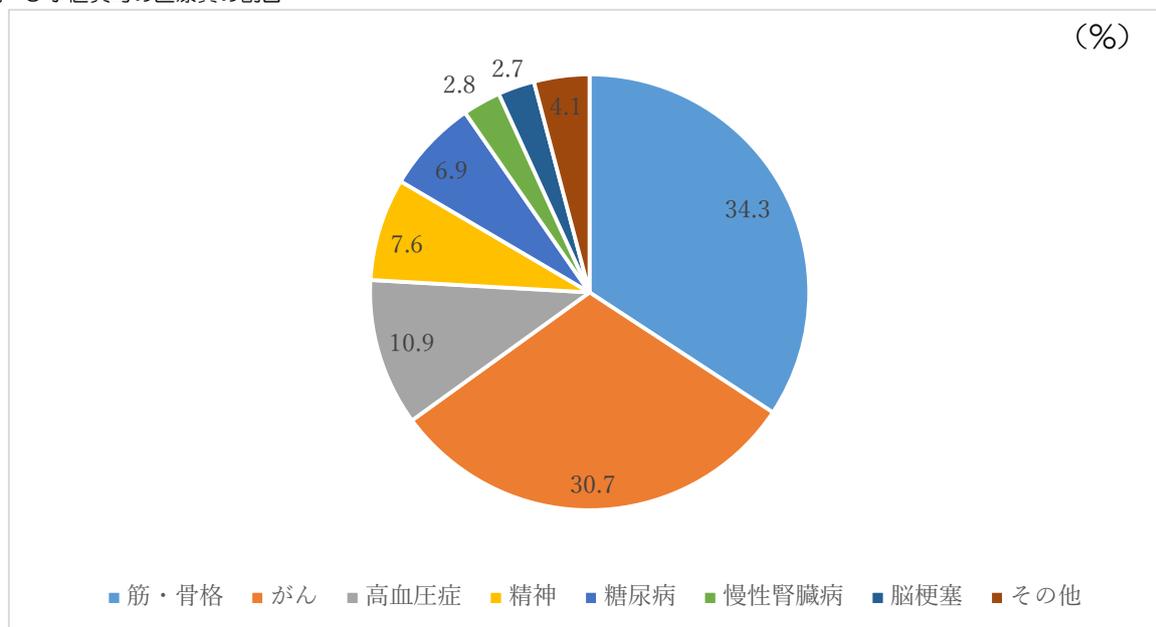


【参照】地域自殺実態プロフィール(2023)全国
 地域自殺実態プロフィール(2023)長崎県
 地域自殺実態プロフィール(2022)小値賀町
 地域自殺実態プロフィール(2023)小値賀町

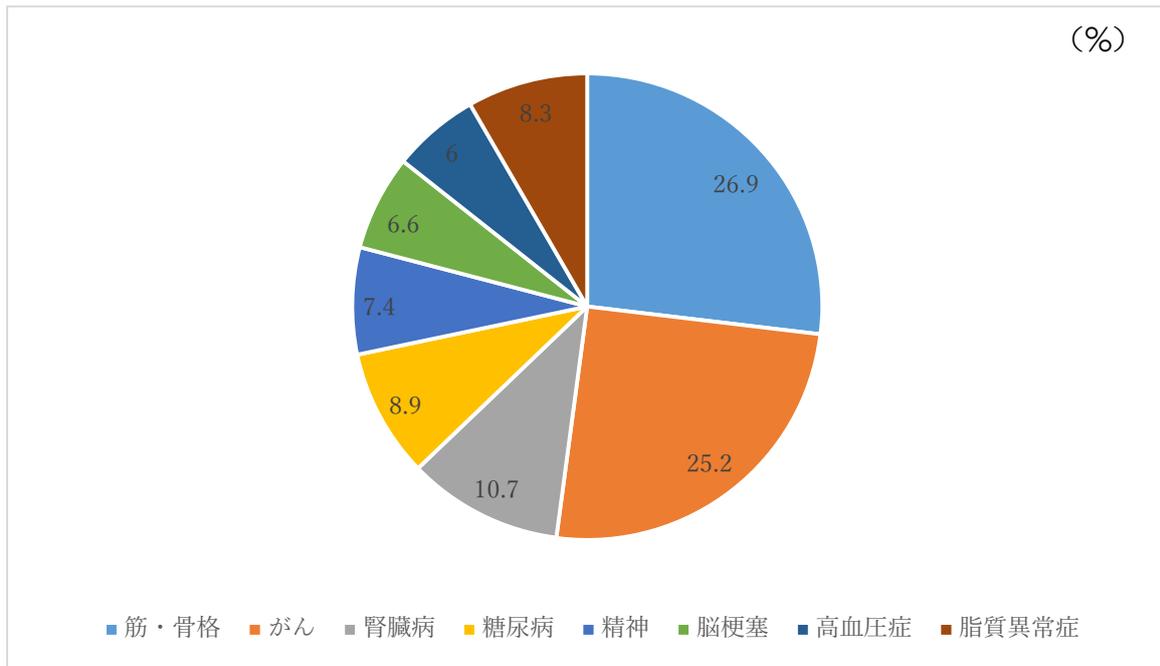
(2) 医療費の割合

図5、図6より全国の医療費は最も筋・骨格系が多く続いてがん、腎臓病、糖尿病、精神と続いており、小値賀町の医療費では、筋・筋肉系が最も多く続いてがん、高血圧症、精神と続いており、これらの疾患で医療費全体の7～8割を占めています。これらより町内でも全国と同様に精神問題を抱える人が多くいることがわかります。

図：5 小値賀町の医療費の割合



図：6 全国の医療費の割合



(3) 小値賀町障害者手帳所持者数

身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は減少傾向にありますが、療育手帳の所持者数は増加傾向が見られています。

図：7 小値賀町障害者手帳所持者数

	R1	R2	R3	R4	R5
身体障害者手帳	169 人	157 人	154 人	153 人	155 人
療育手帳	41 人	45 人	45 人	44 人	47 人
精神障害者保健福祉手帳	23 人	25 人	25 人	18 人	19 人
自立支援医療	19 人	43 人	43 人	46 人	45 人

*1 療育手帳：知的障害者が補助を受けるために必要な手帳

*2 自立支援医療：心身の障害に対する医療費の自己負担を軽減する公的な制度

2. 小値賀町の心の健康に関するデータ

町の自殺の実態に即した計画を作成するため、厚生労働省「人口動態統計」ならびに自殺総合対策推進センターが自治体毎の自殺実態を示した「地域自殺実態プロファイル」を基に分析を行っています。

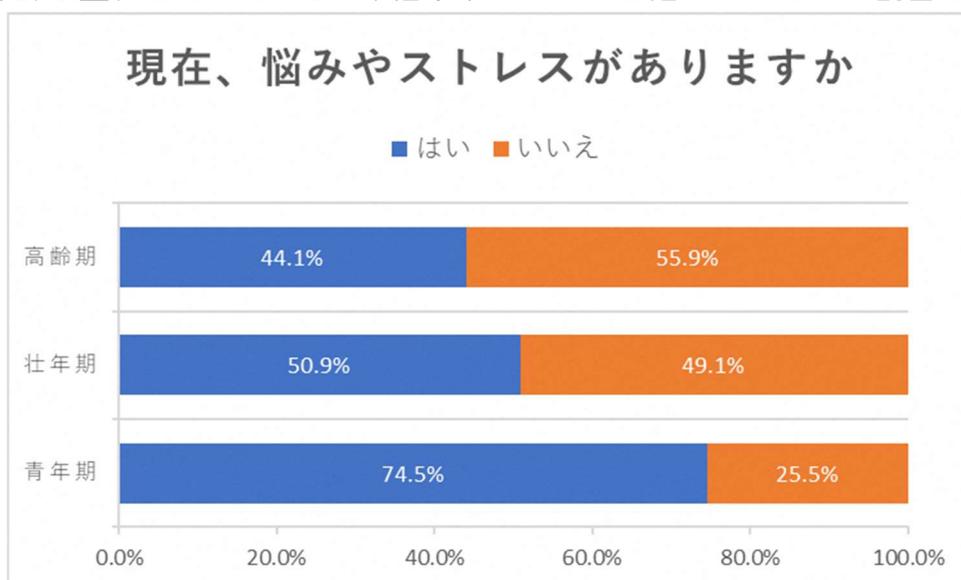
また、自殺に対する町民の意識などの実態を把握することを目的とした「健康づくりのアンケート」を実施し、この調査結果を分析しています。健康づくりアンケートの調査状況は以下の通りとなっています。

【調査方法】	郵送法（封筒による密封回収）
【調査期間】	令和6年11月14日 ～ 令和6年11月29日
【調査対象】	成人 19歳以上の住民の中から無作為に抽出
【回答率】	成人 : 43.0% (333人 男性 141人 女性 187人 無回答 2人/ 775人)
【調査項目】	(1) 悩みやストレスの有無について (2) 地域活動への参加の有無について (3) 日常生活でのストレスの程度について (4) ゲートキーパーについて

(1) 年代別悩みやストレスの有無

青年期が最も悩みやストレスを抱えている人の割合が高くなっています。

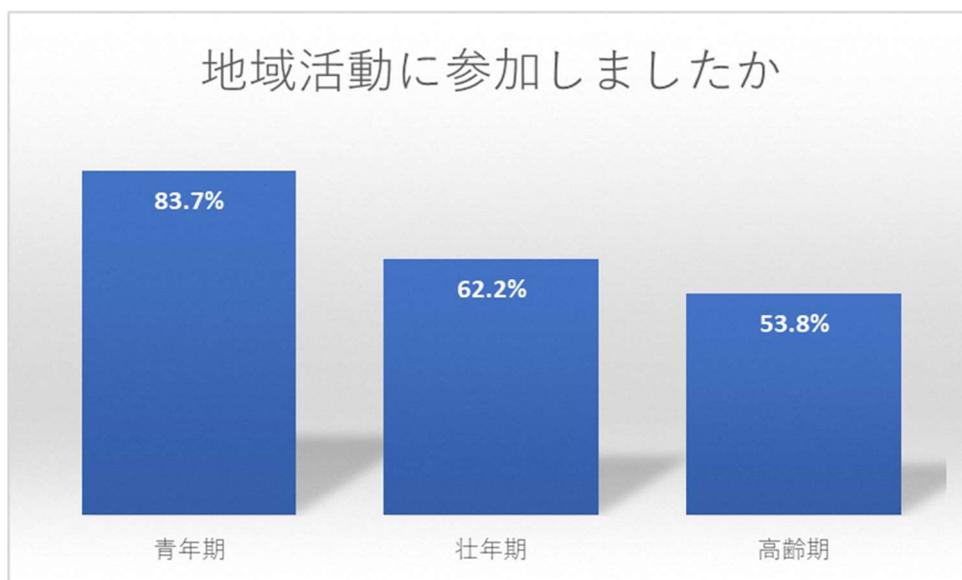
年齢を重ねるにしたがって、悩みやストレスを抱えている人の割合は少なくなっています。



【参照】健康おぢか 21 アンケート 令和6年度

(2) 地域活動への参加の有無

地域活動への参加の割合は、青年期が最も高く、年齢を重ねるにしたがって低下していきます。青年期の人が多く参加している地域活動の中で、悩みやストレスの解消ができるようになれば、悩みやストレスを解消できるのではないのでしょうか。



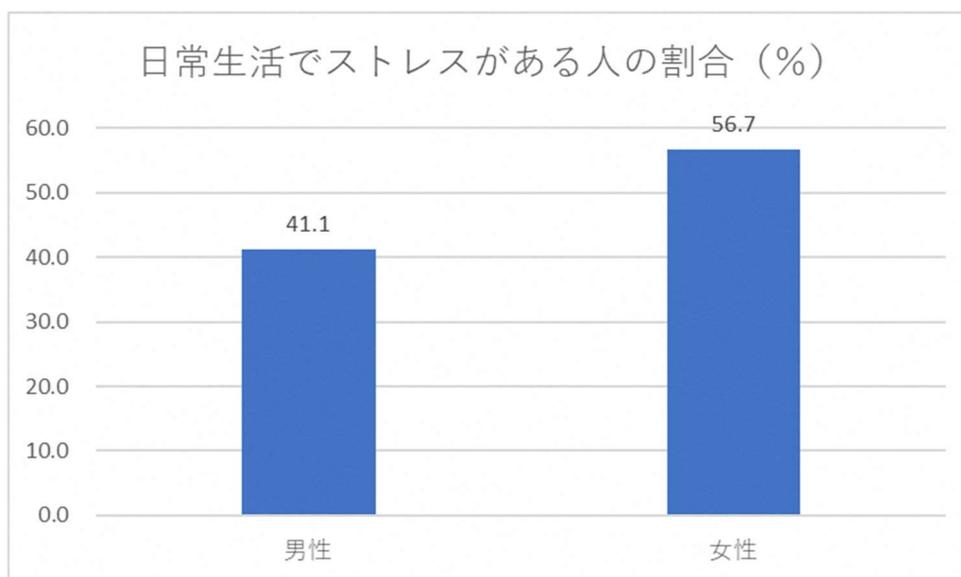
【参照】健康おぢか 21 アンケート 令和6年度版

(3) 日常生活のストレス状況

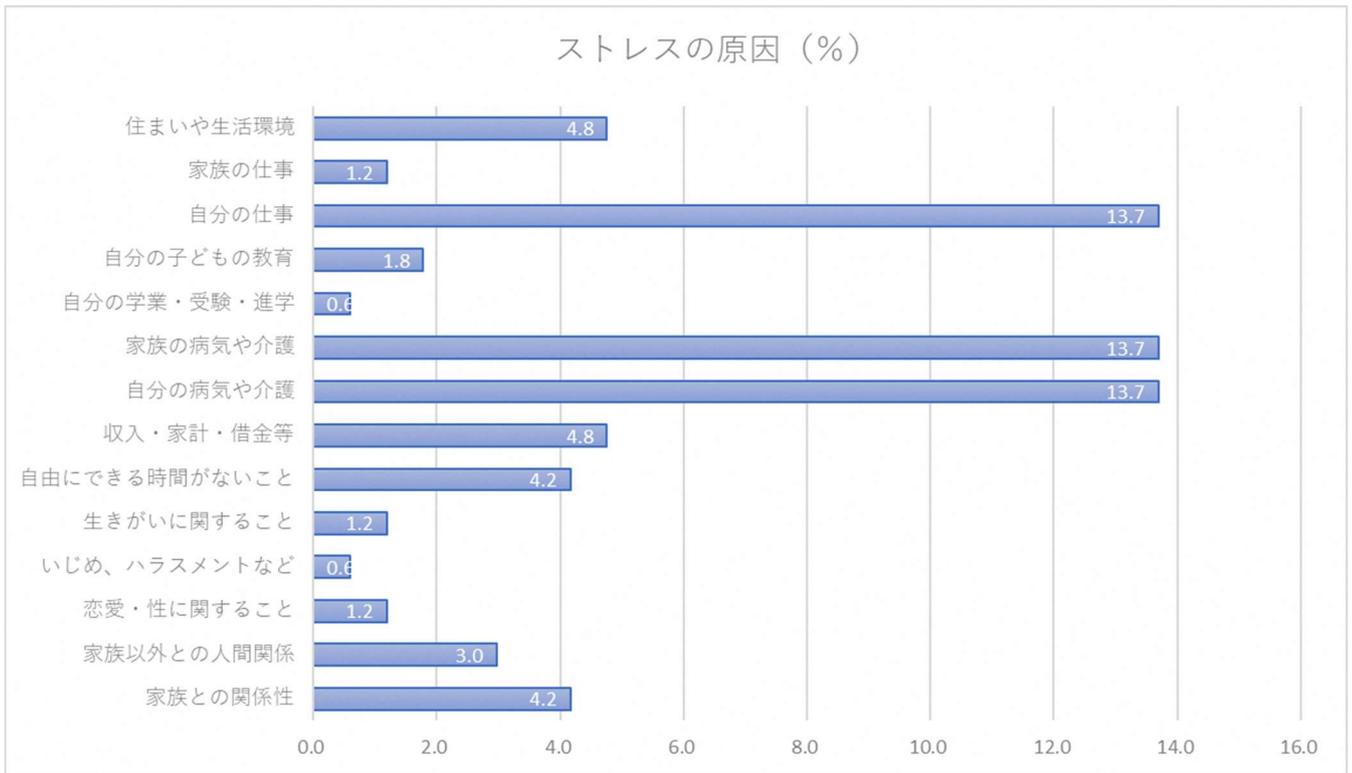
日常生活で、ストレスを抱えている人の割合は男性で4割強、女性で6割弱となっています。女性の方が、日常生活でストレスを抱え込んでしまう傾向が高いようです。

ストレスの原因は、自分の仕事・自分の病気や介護・家族の病気や介護がもっとも高くなっています。

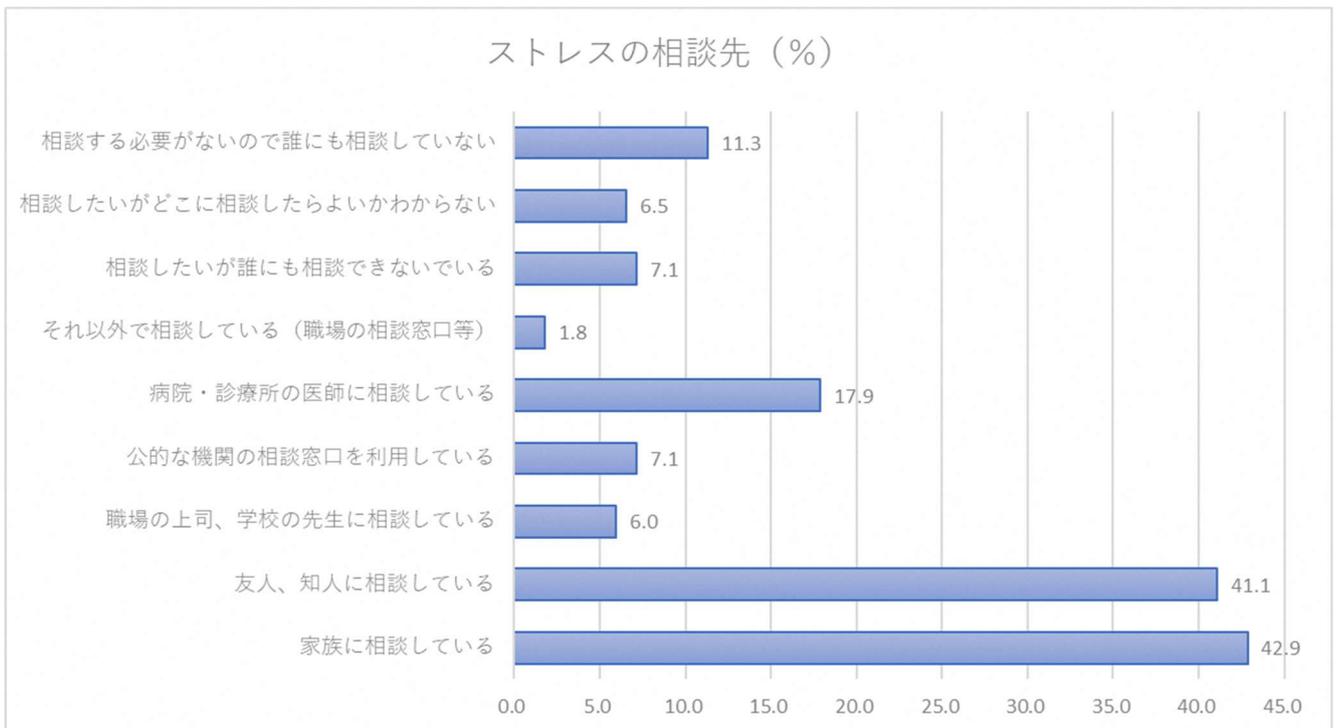
悩みやストレスを相談できるのは、友人や家族が最も多くなっています。次に多いのが、専門家である医師に相談しています。



【参照】健康おぢか 21 アンケート 令和6年度版



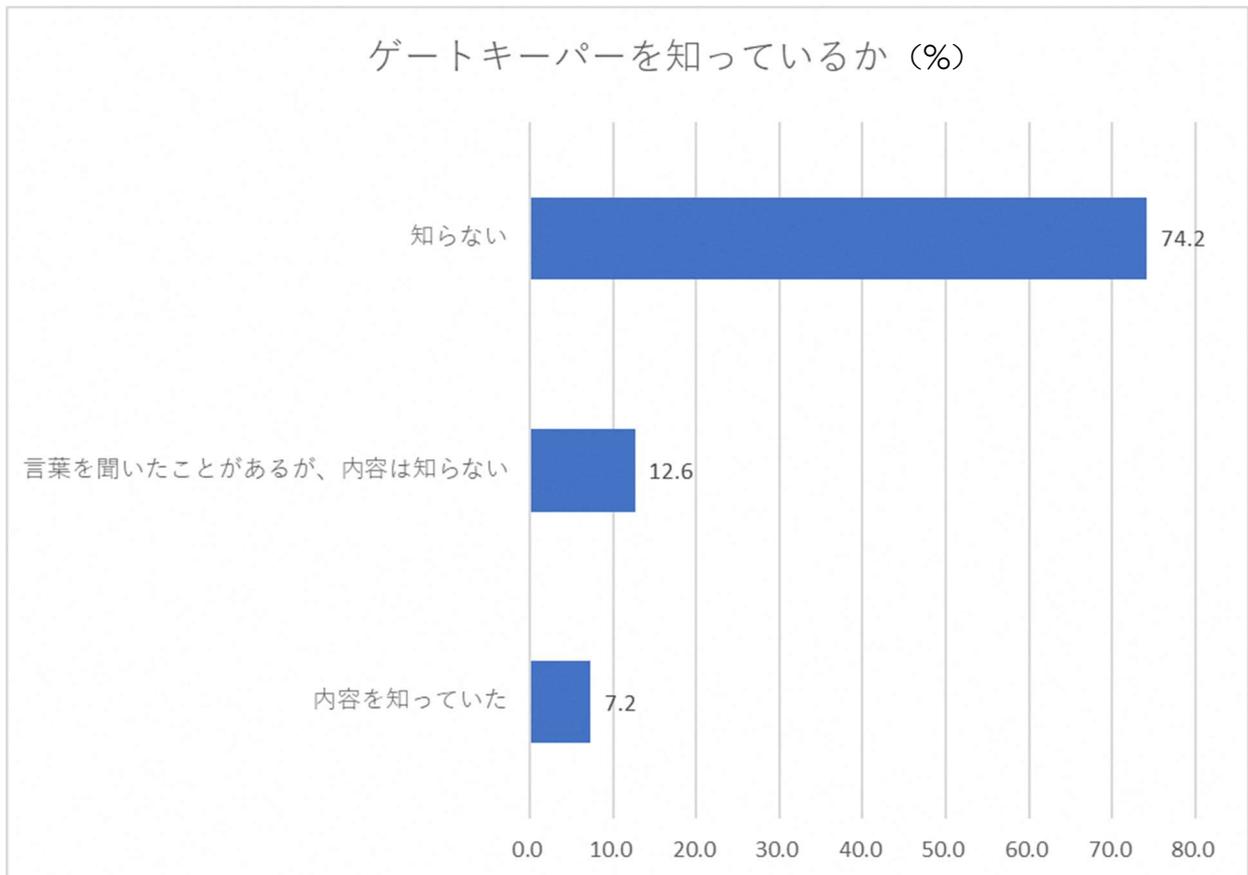
【参照】健康おぢか 21 アンケート 令和6年度版



【参照】健康おぢか 21 アンケート 令和6年度版

(4) ゲートキーパーについて

ゲートキーパーを知っていますかという問いに対しては、19.8%の人が知っているという回答でした。もっと認知度を上げていく必要があります。



【参照】健康おぢか 21 アンケート 令和6年度版

3.現状と課題

	前回目標	前回検証指標	前回目標値	R6 実績値
長期	年間自殺者が0人となる	人口動態統計調査に基づく自殺者数	0人	0人
短期	町民一人ひとりが自殺を身近な問題としてとらえ、こころの不調のサインについて理解できる。	ゲートキーパー養成講座受講者数	120人	71人
	町民一人ひとりが気軽に支援者又は支援機関に相談できる。	町民への啓発と周知の進捗状況	100%	19.8%
重点施策	高齢期の生きることへの支援	人口動態統計調査に基づく高齢期の自殺者数	0人	0人
	青年期の自殺対策の推進	人口動態統計調査に基づく青年期の自殺者数	0人	0人

本町において、この5年間で自殺者は0人でした。長期目標と重点施策は目標達成しました。これは、本町の自殺対策計画が機能しているものと思われます。

ゲートキーパーに関して、認知度が低いため、更なる周知が必要です。

前回計画において、重点施策を達成することができましたので、今回計画においては、長期目標を継続して実施することとします。